

平成 29 年度学内教育 GP プログラム事業経費計画書（継続型）

学 長 殿

申請者（プログラム代表者名）

氏 名 藤 原 葉 子 印

(部局長等の承認)

私は下記の申請について了承します

職名 プロジェクトを担当する副学長

氏名 小 川 温 子 印

職名 大学院人間文化創成科学研究科長

氏名 最 上 善 広 印

職名 ライフサイエンス専攻長

氏名 作 田 正 明 印

事業名称	“多様な食育の場に対応可能な高度専門家の育成” 大学院副専攻「SHOKUIKU プログラム」
取組代表者名 担当者名	基幹研究院 自然科学系 教授 藤原葉子 基幹研究院 自然科学系 教授 香西みどり 基幹研究院 自然科学系 教授 森光康次郎 基幹研究院 自然科学系 教授 赤松利恵 基幹研究院 自然科学系 准教授 須藤紀子 基幹研究院 自然科学系 助教 佐藤瑤子
事業内容	<p>大学院副専攻「SHOKUIKU プログラム」を継続し開講する。</p> <p>背景</p> <p>超高齢社会に突入した我が国では、世代を超えて健やかに生きる力を養うことが求められ、食育が担うべき役割は大きい。社会の様々な場面で、科学的根拠に基づいた質の高い食育を推進するためには、食に関する幅広い専門的知識と実践力をもつ人材が必要である。文部科学省特別経費の採択を受け、平成 22～27 年度に実施した“多様な食育の場に対応可能な高度専門家の育成”プロジェクトでは、大学院教育とプロジェクト採用教員の育成により、多くの高度食育専門家を輩出してきた。このうち主要事業である大学院副専攻「SHOKUIKU プログラム（ベーシックコース・アドバンスコース）」を平成 28 年度より学内 GP プログラムとして実施しており、平成 29 年度も継続実施する。</p> <p>これまでの実績</p> <p>大学における食育プログラムは、愛媛大学農学部など数例あるが、大学院教育課程への設置は本学が唯一であり、様々な領域の女性リーダー育成を担う本学に相応しい独創性の高いプログラムである。</p> <p>平成 23 年度の副専攻開設以来、毎年度の履修登録者数は 25, 28, 62, 50, 49, 35 名と、安定的に多くの大学院生が履修している。全学的な文理融合型副専攻として学内の認知度も高く、履修者の専攻はライフサイエンス、理学、人</p>

間発達科学、ジェンダー社会科学、比較社会文化学と多岐に渡っている。また本プログラムの開講科目を大学院共通科目として履修する学生も多く、コア科目である「エビデンス食教育論」の平成 28 年度履修者 31 名中 11 名は、副専攻履修者以外の大学院生である。

「SHOKUIKU プログラム」を修了すると、学長より「お茶の水女子大学専門食育士®」に認定される。5 年間の認定者数は、「お茶の水女子大学専門食育士®」（ベーシックコース修了者）107 名、「お茶の水女子大学専門食育士®（上級）」（アドバンスコース修了者）6 名（いずれも平成 27 年度見込を含む）である。

平成 26 年度に社会人教育としてプロジェクトが主催した「SHOKUIKU 公開講座～エビデンスに基づいた食育活動を目指して～」では、全 6 回の講座に延べ 316 名の受講者が参加した。また公開講座や副専攻履修について、学外からの問い合わせも多く、食や食育そのもの、およびその知識や情報を得られる機会に対する社会的ニーズの高さがうかがえる。

事業計画

「SHOKUIKU プログラム」が博士前期課程に開講した 5 科目と、博士後期課程に開講した 1 科目を、継続開講する。

- ・「**エビデンス食教育論**」（ベーシックコース・必修）
食育におけるエビデンスの必要性・重要性を認識し、その研究手法を学び、エビデンスを読み解く力を養う。
- ・「**食育研究コロキウム**」（同・必修）
食情報のエビデンスを主体的に集積し、エビデンスに基づいて論理的に議論・伝達する力、コミュニケーション能力を養う。
- ・「**食のサイエンス**」（同・選択必修）
食品機能・生理機能等の食情報を体験的に伝えることの重要性を認識する。
- ・「**食をめぐる環境論**」（同・選択必修・隔年開講・平成 28 年度開講）
経済、政策、最先端の科学技術など、多様な視点から食のあり方を考える。
- ・「**食文化論**」（同・選択必修・隔年開講・平成 29 年度開講予定）
食文化を伝承する意義を認識し、食文化研究におけるエビデンスを学ぶ。
- ・「**食育総合研究**」（アドバンスコース・必修）
科学的根拠の構築として、食研究・食育研究を実践し副論文を作成する。

支援期間終了後の見通し

支援期間終了後は、ライフサイエンス専攻内で事業を継続する。学内教育 GP プログラム（継続型）実施中に、人々のからだと心の健康を支える食育を推進するべく、次期教育プロジェクトへの発展的継続を検討していく。

積算内訳

- ・人件費（非常勤講師）
基本給 @5,700 円×2h×15 回×1 人=171,000 円
交通費 @1,200 円×15 回=18,000 円
保険料 @567
- ・人件費（AA）
基本給 @1,200 円×3h（1 週間）×4 回（1 ヶ月）×12 ヶ月=172,800 円
通勤手当 @1,600 円×12 ヶ月=19,200 円
- ・謝金
実技指導・知識等の教授 @5,700 円×2h×6 回=68,400 円
- ・物品費
講義・実習用消耗品 50,000 円

平成28年度 学内教育GPプログラム事業（継続型）の
現在の進捗状況と今後の事業計画

取組代表者 基幹研究院 自然科学系 教授 藤原葉子

事業名称	<p>“多様な食育の場に対応可能な高度専門家の育成” 大学院副専攻「SHOKUIKUプログラム」</p>
現在の進捗状況	<p>* 28年度に助成を受けている課題については、事業計画に即して成果を詳細かつ客観的に記載してください。</p> <p>大学院副専攻「SHOKUIKUプログラム」新規履修登録者は5専攻・8コースより22名（うち1名は後期入学のため後期より履修開始）、継続履修登録者も合わせた全登録者数は35名となる。</p> <p>「エビデンス食教育論」は31名が履修登録、23名が単位取得。 「食育研究コロキウム」は22名が履修登録、20名が単位取得。 「食のサイエンス」は21名が履修登録、19名が単位取得。 「食をめぐる環境論」は28名が履修登録、24名が単位取得。信州大学附属アルプス圏フィールド科学教育研究センターにおける「食育フィールド実習」には25名が参加した。 「食育総合研究」は1名が履修登録し、博士論文の副論文を提出する見込みである。</p> <p>今年度のベーシックコース修了者＝「お茶の水女子大学専門食育士」認定対象者は24名、アドバンスコース修了者＝「お茶の水女子大学専門食育士（上級）」認定対象者は1名の見込みである。</p>
今後の事業計画	<p>平成29年度の大学院副専攻「SHOKUIKUプログラム」を継続開講する。</p> <p>開講科目（博士前期・後期課程）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「エビデンス食教育論」（ベーシックコース・必修） ・「食育研究コロキウム」（同・必修） ・「食のサイエンス」（同・選択必修） ・「食文化論」（同・選択必修・隔年開講） <p>開講科目（博士後期課程）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「食育総合研究」（アドバンスコース・必修） <p>すでに副専攻を履修中の学生のなかには、29年度、上記開講科目の履修を計画している者もいることから、開講は必須である。また、これまでの実績から新規履修希望者も、今年度と同等に見込まれる。さらに、卒業生や学外の企業人、家庭科教員等から、科目等履修生としての履修について問い合わせも寄せられていることから、副専攻「SHOKUIKUプログラム」の継続開講は、社会におけるニーズも高く、引き続き開講していく必要があると考えている。</p> <p>29年度中に本プログラムの特色である「エビデンス食教育論」の内容を教科書にまとめる。</p>

※ この様式は適宜広げて（本用紙を含め2枚以内）記入してください。